

項目1 学校が楽しい

児童・保護者・教職員ともに非常に良好である。このまま子どもたちにとってよい学校を維持していきたい。

項目6 よく読書をしている

ここでは児童と教職員に対して、保護者が大きく下回る結果となった。これは学校においては図書館の利用など読書をする機会に恵まれているが、家庭ではほとんど本を読んでいると考えられる。やはり、ゲームやSNS、YouTubeなど子どもたちにとって魅力あるものが読書を上回り、現在の環境下では本離れが進んでいると思われる。これは学校だけの問題では無く、広く地域も巻き込んだ対策が必要である。

本校としては、読み聞かせや国語科の並行読書、学年の必読図書など様々な工夫を実践し、子どもたちに読書の魅力を伝える試みを実践している。今後は、家庭にも広くこの取組を周知し、読書の環境を整えていきたい。

項目9 行事に一生懸命取り組んでいる

ここでは児童の評価が昨年より上昇した。しかしながら、保護者・教職員はいずれも下降しており、特に教職員は7ポイントも下がっている。これは教師の多忙感からきていると思われる。児童の思いを大切にしながら、量より質を求めて、業務改善の視点からも行事の精選・スリム化が必要である。

項目10 いじめをしない、いじめを見逃さないよう行動している。

この項目では、児童と教職員がほぼ同等の数値約90%を示しているのに対して、保護者は61%と低い数値となっている。これはいじめが顕在化せず、隠蔽される体質を懸念してのものと思われる。常にいじめに対してアンテナを高くして、顕在化させるとともに、毅然とした態度にいじめと向き合えるようにしていくことが急務である。

項目11 進んで元気にあいさつをしている。

ここでは、教職員の評価が大きく向上した。これは、昨年から重点的に取り組んでいる、挨拶の励行が、少しずつ浸透してきている表れである。学校におけるあいさつをする環境は、かなり整ってきているので、これから家庭や地域に浸透していければと思う。

項目12 係や委員会や清掃などに責任をもって活動している。

項目15 安全を意識して生活している。(交通ルール、校内設備利用、インターネットの

使い方など)

この2つの項目は、児童の評価が高く、非常に良好である。しかし一方で保護者の評価は低いものとなっている。これは家庭の様子から、自分の子どもが働いている様子や安全を意識している様子が感じられないためと想像できる。児童は学校ではがんばっているが、家庭では力を抜いているもので、これは決して悪いことでは無いと考えられる。もう少し自分の子どものことを信じて、褒めて伸ばす方向で考えて頂きたい。

項目14 マナーを守って給食を食べている。

ここでは、児童が高い評価であるが、保護者は低い評価となっている。これも前述の通り、家庭と学校では子どもたちの態度が違ふと考えられる。しかし気になるのは、教師の評価が低く、全項目中最も低い項目となった。コロナ後も前向き給食、黙食を推奨しているが、まだまだマナーを守る点で指導が必要であると考えられる。

項目17 他の学年や他の学校との学習や活動は楽しい。(小中一貫推進)

ここでは、児童と教職員が高い評価であるのに対して、保護者が非常に低い評価となっている。これは石中学区として取り組んでいる小中一貫の様々な取組が、保護者に伝わっていないと考えられる。漠然とした質問に回答に困っている様子が窺える。どうやって保護者に理解してもらうかが課題である。

項目20 先生は、困ったことや悩み事を相談しやすい。

この項目で顕著なことは、教職員の評価は高く、児童の困り感に寄り添う姿勢を示しているが、一部の児童が相談しにくいと感じていること、そして保護者も72%は納得しているが、逆に28%は相談しにくいと感じている点である。この溝を埋めていく努力が必要である。

項目22 家でテレビやゲームなどの時間を決め、守っている。

ここでは児童の評価が低く、読書に続いて2番目に低いものとなっている。やはりメディア関係は、児童も自信が無いと考えられる。さらに保護者も低く、テレビやゲームに依存している子どもの実態を危惧していると思われる。メディアリテラシーの育成や、SNSなどの危険性を指導していくことは勿論であるが、自分を律する力を高めていく必要性を感じる。今後、重点的に取り組んでいきたい。